

十五、少年及兒童保護事件

臺灣各地方法院 106 年少年及兒童保護事件終結 45,805 件，較 105 年減少 1.87%，其中少年保護事件 44,592 件，較上年減少 2.20%；兒童保護事件 1,213 件，則較上年增加 12.11%。

106 年受保護處分人數為 9,424 人，較 105 年減少 2.07%，其中以保護管束較上年減少 283 人為最多。就保護處分情形觀之，以保護管束 3,774 人(占 40.05%)最多，訓誡並予假日生活輔導 2,517 人(占 26.71%)次之，訓誡 1,727 人(占 18.33%)第三。

106 年少年及兒童保護事件之保護原因，以自制力不足(占 47.36%)、交友不慎(占 13.93%)、缺乏法律常識(占 7.00%)及管教不當(占 5.50%)為主；而觸犯刑罰法令行為之少年及兒童，有近六成八之家庭經濟狀況屬勉足維持生活及低收入戶；教育程度則以高中(職)程度(含畢業及肄業)為主。

表 2.13 臺灣各地方法院少年及兒童保護事件終結件數及保護處分情形

單位：件；人；%

年別	終 結 件 數			保 護 處 分 情 形 (人)						
	總計	少年保護事件	兒童保護事件	總計	訓誡	訓誡並予 假日生活 輔導	保護 管束	保護管束 並命勞動 服 務	安置 輔導	感化 教育
97 年	42,947	41,915	1,032	10,256	1,347	3,435	4,025	729	141	579
98 年	44,056	42,930	1,126	10,332	1,495	3,367	3,996	703	168	603
99 年	43,216	42,097	1,119	10,721	1,726	3,400	4,201	628	190	576
100 年	50,745	49,637	1,108	12,950	2,225	4,114	4,945	756	151	759
101 年	56,720	55,288	1,432	14,125	2,432	4,393	5,436	902	149	813
102 年	59,270	57,813	1,457	13,917	2,344	4,161	5,432	1,011	160	809
103 年	52,003	50,491	1,512	11,674	2,039	3,396	4,457	928	192	662
104 年	50,883	49,641	1,242	10,797	1,799	2,889	4,445	826	154	684
105 年	46,677	45,595	1,082	9,623	1,619	2,546	4,057	653	137	611
106 年	45,805	44,592	1,213	9,424	1,727	2,517	3,774	699	127	580
106 年較 上年增 減 (%)	-1.87	-2.20	12.11	-2.07	6.67	-1.14	-6.98	7.04	-7.30	-5.07